

奈良町の南玄関 歴史と文化の扉をひらく

令和3年(2021)7月1日発行 奈良：京阪奈情報教育出版 ID111352289

令和元年(2019)に JR 桜井(万葉まほろば)線京終駅の駅舎が明治31年(1898)開業時の姿に復元されました。新たな地域文化の拠点として生まれ変わり、この地域への関心が高まっています。個性あふれる地域性を歴史的に形作ってきた奈良町南部地域について、古代から近代までの歴史と文化を紹介するものです。元興寺文化財研究所を中心とする専門家と、地域づくりを担ってきた有志とが協働し、多くの住民の方々のご協力を得てこの地域に残された資料を掘り起こし、古代から近現代までの歴史と、今に受け継がれている産業や生活・信仰文化をまとめました。



奈良の「勝手口」だった京終駅

明治29年(1896)奈良鉄道は京都～奈良間を全通し、明治32年(1899)奈良～京終間正式開通。奈良鉄道は関西鉄道に譲渡され明治40年(1907)国鉄となった。京終駅舎は木造瓦葺平屋建ての寄棟造屋根の建物で明治31年(1898)竣工した。

東部山間部から奈良安全索道による産物搬入や桜井方面の県南部からの荷物の運送、買い物にきた人は京終駅で下車し京終の青果市場で食料、餅飯殿商店街で衣料品を購入し、物流の拠点であると同時に奈良の「勝手口」といわれた。

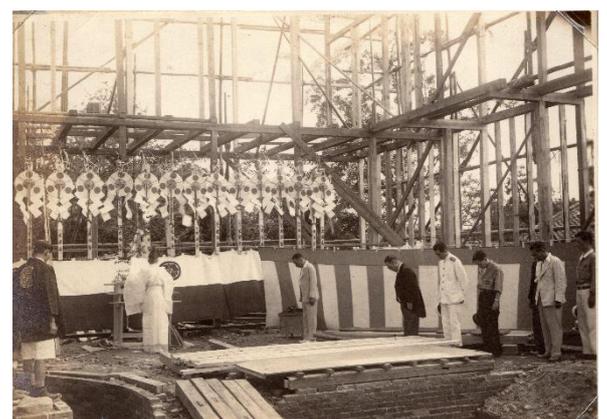
大衆文化「中井座」と谷井友三郎

明治42年(1909)、北京終に芝居小屋「中井座」が舞台開きを行った。

また、北京終生まれの谷井友三郎は谷井興業を創立し、昭和14年(1939)には「観光大和歴史館」昭和17年(1942)「ニュース映画館」昭和21年(1946)「友楽座」、昭和24年(1949)「奈良映画劇場」など映画館や劇場を運営しただけでなく「春日若宮おん祭り」の時代行列を、私財を投じて昭和21年(1946)復活させた。昭和35年(1960)「奈良遷都千二百五十年祭」で一大行列絵巻を実現するなど伝統行事の基礎をつくった。



開業当時の京終駅舎(左)
明治36年(1903)刊行「奈良鉄道案内」
宇治市歴史資料館所蔵



友楽座上棟式 昭和21年(1946)
写真提供：谷井民子氏